

# 2020（令和2）年度決算について

学校法人大手前学園  
理事長 福井 要

2020（令和2）年度学校法人大手前学園の決算は、東陽監査法人並びに監事の監査を経たうえで、2021年5月25日（火）開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行います。

## 【決算概要】

### （1）資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容と支払資金の顛末を明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2020年度の決算は収入の部合計で、30百万円増の122億31百万円となりました。これは、主として前受金収入が当初の予想よりも上回ったことによるものです。

一方、支出の部では主として教育研究経費が当初の予想よりも上回ったため、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で36百万円の増加となりました。

結果として、翌年度繰越支払資金は、6百万円減の34億45百万円とほぼ予算通りとなりました。

活動区分による資金収支の状況は、教育活動による資金収支差額が2億49百万円の収入超過、施設整備等活動による資金収支差額が8億83百万円の支出超過、その他の活動による資金収支差額が16億84百万円の収入超過となりました。これにより、支払資金の増減額は10億50百万円の増加となりました。

### （2）事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、その均衡状態（経営状態）をあらわすもので、企業会計の損益計算書に該当するものです。ここでも予算額との比較で説明します。

事業活動収入計は4百万円増の57億67百万円、事業活動支出計は1億34百万円増の64億36百万円となり、その結果基本金組入前当年度収支差額は、予算額より1億29百万円支出超過の6億69百万円の支出超過となりました。

活動区分毎に見てみますと、教育活動収支は、収入面で経常費等補助金の減少により、16百万円減の55億99百万円となりました。一方で支出面は、主として教育研究経費の増加により、1億8百万円増の62億82百万円となりました。結果、教育活動収支差額は、予算額より1億24百万円支出増の6億83百万円の支出超過となりました。

教育活動外収支は、収入面、支出面ともほぼ予算通りで、収支差額は2百万円収入増の51百万円の収入超過となりました。

特別収支は、収入面では、施設設備補助金の増によるその他の特別収入の増加で、20百万円増加した反面、資産処分差額が26百万円増の1億42百万円となったため、特別収支差額は、6百万円支出増の37百万円の支出超過となりました。

### (3) 貸借対照表

貸借対照表は、期末における学園の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず、資産の部ですが、有形固定資産は、さくら夙川キャンパス新校舎E棟の建設により20億1百万円増加しました。

一方で、特定資産の取崩等の要因があり、固定資産全体では96百万円の減少となりました。

流動資産は、現金預金の増加等により11億89百万円の増加となりました。

結果として、総資産額では、10億92百万円増の412億67百万円となりました。

負債の部では、借入金の実行等により、負債合計で17億61百万円の増加となりました。

従いまして、純資産額（総資産額－総負債額）は、前年度末に比して6億69百万円減の350億54百万円となりました。また、総資産額に占める割合（純資産比率）は、前年度末より4.0ポイント減の84.9%となりました。

尚、各々の科目の数値については、別掲の「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」をご覧ください。また、経年の比較と財務比率等については、「事業報告書 財務の状況」をご覧ください。

以上